

## 町長室から

9月3日は菅総理大臣が、突然に自民党総裁選不出馬を表明するという、日本の政治が大きく動いた日となりました。

色々憶測が流れていますが、御本人は「コロナ対策に専念するためと会見で述べられておりますことから、真相は知る術もありません。

ただ、緊急事態宣言下にある状況で、まだまだ明るい見通しは見えていないだけに、秋から冬にかけて活性化するといわれているウィルスの封じ込めと医療体制の構築には緊張感を持って取り組むべきです。加勢するのは自民党の総裁選挙報道ばかりです。

報道の在り方にも警鐘を鳴らすべきではないでしょうか。

日本の砂糖生産は北海道で約35%を占めています。その原料は畑で作られる甜菜（ビート）です。

製糖会社は北海道に大手3社があり、その一つである北海道糖業（株）は本別、北見、伊達に工場を持ち、半世紀にわたり国内産の砂糖製造業者として、畑作農業の基幹作物である甜菜（ビート）生産の維持と安定に寄与されてきました。

しかし、砂糖需要の減少など事業環境の急速な変化や施設の老朽化などにより、生産拠点の統廃合などの経営の転換を迫られることにな

り、2023年3月末に本別工場の操業停止を余儀なくされたとの報告がありました。

北海道糖業（株）本別製糖所へは管内8町から原料供給されていますが、この中でも本町の出荷量は約10万トンに上り、工場の受け入れ量の4分の1以上を占めています。

本別製糖所の所長さんが説明に見えられた際に、生産者は大変心配している事と今後の方針についてお尋ねしましたが、「8町から受け入れている原料の甜菜（ビート）は、これまで同様に本別の施設で受け入れることに変わりはないし、生産への耕作指導は継続するので、生産者にご迷惑をおかけする事はない」と断言されました。

甜菜（ビート）生産は農業の輪作体系に深く組み込まれており、農協との情報共有を図るとともに連携協力を行いながら、甜菜（ビート）の生産や関係者に影響を与える事のないように強く要請いたしました。

浦幌町では昭和41年の常盤小学校から始まり、平成28年の厚内小学校まで、閉校した小学校は21校になります。今はその姿を見る事は出来ません。

ところが、先日帯広市の葵学園上野敏郎理事長より、閉校された全ての

の学校校舎を描いた絵を贈呈していただきました。

昔映画館の看板製作をしていた人が描いた絵とお聞きしましたが、閉校して解体した校舎の姿を描くには資料の収集から始めなくてはなりませんから、大変な労作です。

上野氏は十勝全市町村の閉校した学校の姿をそのような形で残すことに力を注いでおり、浦幌町の閉校した中学校の分も出来上がり次第、贈呈したいと大変ありがたい申し出がありました。

いつか、町民の皆様の日にも触れる機会を作りたいと思います。

「ハハハホステル」で浦幌スタイルの中学生版浦幌部の「浦カフエ」が開かれました。

中学生達が企画やメニュー、原価計算、チラシ作成、当日の接客や調理まですべて自分たちで完結することで、お客さんの反応を直に感じる事と達成感、課題など多くの貴重な体験を得ることが出来たと報告を受けました。

私も客の1人として訪問しましたが、活き活きとした接客と感じが良い受け答えに料理の美味しさも合わせて「やるもんだな」と感じました。

中学生の皆さんには目標もあるようですので、1つの体験として生

かしてほしいものです。

新型コロナウイルス感染症による「緊急事態宣言」が9月30日まで延長されました。

議会でも報告させていただきましたが、現時点での浦幌町の接種率は85.3%となりましたが、10代、20代の接種率が60%台と各年齢層に比して大変低くなっています。

最初は若い方は感染しても重篤化しないと言われていましたが、デルタ株に置き換わってから10代の感染者が亡くなるという報道がある様に、低年齢層でも感染後の後遺症に悩まれる方も出てきています。

ワクチンの接種はあくまでも自分の意志で決めるものですが、浦幌町はこれまで行った集団接種でまだ未接種となっている方を対象に10月と11月に接種する機会を設けますので、まだ未接種の方はぜひ申し込んでいただき、自分の身の安全と身近な方の安全を守っていただきたいと思っております。

日々、秋の装いが深まってきます。季節の変わり目ですので、町民の皆さんには、ご自愛ください。よろしくお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣

## 仕事について考える

連載  
126札幌大谷大学社会学部  
教授 平岡祥孝

釣瓶落としの秋を迎えました。日の短さは物悲しくもあります。ですが、実りの秋でもあり、十勝も大地の収穫に恵まれることでしょうね。

私事で恐縮ですが、最近、「リーダーが優秀なら、組織も悪くない」を、(株)PHP研究所から上梓いたしました。この「リーダーが優秀なら、組織も悪くない」という書名は、映画『踊る大捜査線THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』に登場する台詞から拝借したものです。拙著に興味を持っていただけるならば、幸甚に存じます。

以前にも紹介したかもしれませんが、あくまでも私の独断と偏見によれば、この映画こそ、感情の動物である人から成り立つ組織における仕事のあり方、あるいはその構成員である人の働き方を規定する要因に関して学ぶことができる稀有な作品です。昨今、学校現場で展開されている輸入教育のキャリア教育よりも、はるかに実践的な教育内容である、私は確信しています。エンターテインメントの域を超えた作品です。

経済のグローバル化は時代の潮流です。それゆえ、ローカル企業であっても経営環境はグローバル化が進んでいます。しかしながら、経営体質や組織構造はグローバル化しているとは、単純には言えないのではないのでしょうか。いわゆる日本型経営と呼ばれる経営実態を色濃く残している企業が多いと、私には思えてなりません。終身雇用・年功序列型賃金体系・企業内組合という「三種の神器」を残らせています。

私は組織論や人材論の視点から、「ミドル最強説」を信奉しております。チームの成果を最大にするミドルの力こそ、組織の中核である、私は考えています。『踊る大捜査線THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』では、真矢みき扮する沖田管理官と柳葉敏郎扮する室井管理官が、捜査本部の指揮官として対比的に描かれています。沖田は上からの命令と統制に基づく指揮に固執する結果、捜査態勢が崩壊してしまいます。室井は捜査態勢を立て直しを図るために、報告を厳守させつつも所轄捜査員に権限委譲して、現場力を引き出そうとします。上司と部下の信頼関係が築かれていく過程が見所と言えましょう。

仕事や勉学はもとより何事においても、人は心が納得しないと、真の力を発揮しない。

たとえ小なりと言えども組織であ

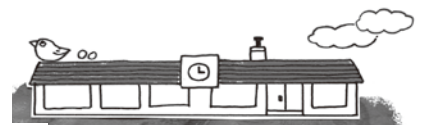
れば、上司としてのミドルが部下のワークモチベーション(仕事動機)を最大限に引き出し、チーム全体のモラル(士気)を高める役割が求められます。フォロワーシップに裏打ちされたリーダーシップを発揮しなければなりません。

コロナ禍にあつてテレワークが推奨されるとともに、ジョブ型雇用の推進も叫ばれるようになってきました。けれども、企業経営の門外漢である私の眼には、浅薄な理解に留まり、その本質を的確に把握していない議論や主張が少なからず映りました。ジョブ型雇用は経営計画に基づいた「ポスト限定型雇用」です。他方、日本の場合は、従来からメンバーシップ型雇用が主流であり、一般的には無限定雇用と理解されています。果たして、ローカル企業にジョブ型雇用が拡大していくのか、はまだ疑問です。企業の持続可能性は成長が前提条件です。やはり変革志向のミドル人材の多寡が成長の源泉ではないでしょうか。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

## Tokomuro Lab 通信 vol. 19

浦幌町字常室 51-1  
Tel: 015-578-7580

## 【開校時間】

定休日 火曜・水曜

- <ラボ> 10:00-17:00  
キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベントの開催のご相談…承ります!
- <カフェ> 土曜・日曜  
11:30-17:00  
(16:30ラストオーダー)  
校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理でリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!

こんにちは!地域おこし協力隊・常室ラボ担当の青木です。

昨年の中頃は来年の後半にはコロナも落ち着いてるかな〜と楽観的に考えていましたが、いまだ収束の兆しはなかなか見えないですね。

さて、9月の中旬からTOKOMURO Labの小部屋(コワーキングスペース内の奥の部屋:元校長室)で小さな紅茶のお店を始めます!

(執筆時点での予定で緊急事態宣言が延長の場合はOPEN日は変更します。)

TOKOMURO Cafeで出しているMITSUTEAのセイロンティーをはじめ、ハマナスのブレンドティー、完全オーガニックで栽培している希少なウバの紅茶やスパイスの販売を予定しています。不安定な状況が続くなかでホッと一息つく時間を紅茶とともに過ごしてみませんか? どうぞお楽しみに!